

実践女子大学文芸資料研究所「年報」第四十四号（二〇二五年三月三〇日）

## 文芸資料研究所蔵

### 「〔萌黄地糸瓜花鳥文金欄表紙手鑑〕」（934）影印・解題

舟見 一哉  
別府 節子  
上野 英子

#### 要旨

本学文芸資料研究所が所蔵する「〔萌黄地糸瓜花鳥文金欄表紙手鑑〕」（整理番号934）について、手鑑本体の書誌、所収切類の書誌・書写内容の報告と、全容の公開を行う。

**A Bibliographic Study and Image Release of the “Kohitsu Tekagami (934)”  
in the Collection of the Jissen Women’s Educational Institute Bungei Material  
Laboratory**

Kazuya Funami

Setsuko Beppu

Eiko Ueno

This study presents a bibliographic examination of the “Kohitsu Tekagami (Item No. 934)” from the catalog of the Jissen Women’s Educational Institute Bungei Material Laboratory. It also offers an analysis of its content and encompasses the public release of its images.

本稿は、実践女子大学文芸資料研究所が所蔵する古筆手鑑のうちの一帖(整理番号934)について報告するものである。本手鑑所収の『源氏物語』の古筆切の一部については、すでに『源氏物語 古筆の世界』(武蔵野書院、二〇二三年)で紹介されており、そこでは本手鑑は「実践女子大学文芸資料研究所蔵無銘古筆手鑑」と称されている。しかし、文芸資料研究所には、銘のない古筆手鑑が複数所蔵されているので、表紙の文様をもって新たに仮の資料名とした。本稿では、手鑑本体の書誌、所収切類の書誌・書写内容の報告と、全容の公開を行う。排列や、鑑定家・極札、特筆すべき切についての詳細な報告などは、次稿にて行う予定である。

# 「本体の書誌」

古筆手鑑(934) 〔鎌倉時代〕 一帖

折帖装。萌黄地糸瓜花鳥文金欄表紙、縦三九・〇×横二四・六センチ。外題なし。見返しは布目金箔押。天と側面に金泥を塗る。表面に四〇葉、裏面に六一葉、計一〇一葉の古筆切・短冊・色紙を所収。張り替えの跡があるが、作製後に張り替えがあったのか、帖の転用かは不明。鍵金具付の桐製黒塗箱(蓋の右肩に題簽らしきものの剥離跡あり)に収納されているが、本手鑑のために誂えたものか転用かはやはり不明。

## 「所収切類の書誌・書写内容・凡例」

表面には古筆切、裏面には短冊と色紙が貼られている。経切は一葉もない。個々の性格については次稿にて論じることとし、後掲の一覧は最小限の書誌事項を示すに留めた。各項目の記載は以下の方針に基づく。

○No——今回の調査で仮に付した通し番号。

○伝称筆者——極札の翻字を原則としたが、必要と思われる内容を翻字の後の〔〕内に補ったものがある。

○鑑定者——極印の印文を翻刻した（鑑定者の同定は次稿にて行う）。なお別途貼紙のある場合は、②貼紙として、その記述内容を示す。

○内容1・2——韻文は日本文学Web図書館和歌・連歌ライブラリーでの所在を示す。作品名の確定が難しい場合は〔〕で示す。

○材質——目視による材質や料紙の加飾（加飾の材料と図様を記載）について示す。

○法量——縦・横ともに単位はセンチ。

○字高——界罫線および字面高さ（字高）を示す。単位はセンチ。短冊や散らし書きの場合は割愛した。

○推定書写年代——筆跡や紙質などから総合的に推定される書写年代を示す。

【付記】本研究はJSPS科研費のうち、24K03667（舟見）、24K03666（上野）の助成を受けたものである。

舟見一哉（本学准教授・文芸資料研究所兼務研究員）

別府節子（文芸資料研究所客員研究員）

上野英子（本学教授・文芸資料研究所専任研究員）



大分県	探検隊名	調査地域	発掘品名	内容1	内容2	材質	厚さ(釐)	長さ2	幅	重	高さ	製作年代	その後の調査情報
1	伏見院	【埼玉】	銅貨類		巻十六第2~1143	形部遺蹟(大生田行跡)	巻十六	七行、和歌三行書	23.9	14.5	24.0	永仁二年(1144)頃	二毛を焼く。3行目、24行目の間。
2	後小松院	【埼玉】	【未詳(銅貨)】			羽黒遺蹟(「丁字跡」跡、巻十六か所は後入?)	巻十六	二行、和歌二行書	32.8	5.1	奈良304、奈良26	南北朝末～室町初期	
3	後伏見院	【宇都】	【重石物語(銅貨類)】		重石物語(重石物語大巻15340)～5559(重石物語中巻)	紙本遺蹟	四半冊子	四行	23.8	42	232	鎌倉時代	【重石物語】 古巻の世界No.37と一致。
4	後二条院	【宇都】	漆片切	巻葉紙(二皮木)	巻葉紙久賀巻上44~546	紙本遺蹟	四半冊子	十二行	23.0	18.3	19.4	鎌倉時代	
5	後光厳院	【宇都】	【未詳(物語)】			紙本遺蹟	六半冊子	十一行	23.8	4.8	21.5	南北朝時代	
6	後醍醐院	【丁字(上巻)遺蹟(巻葉)】 2毛を焼く(後中巻) 貞和十月三日丁卯撰台	古今集	巻第四・地巻上・104~109	紙本遺蹟	四半冊子	和歌二行書	和歌二行書	20.8	13.4	17.4	南北朝末～室町時代 初	巻入は別冊。巻葉紙点前あり。
7	後大徳院	【宇都】	大和物語	第四十段(部分)	紙本遺蹟	六半冊子	一二行、和歌二行書		15.4	16.0	13.4	室町時代後期	巻入あり。
8	尊良親王	【宇都】	古今集	巻第六・巻歌222~234	紙本遺蹟	四半冊子	一〇行、和歌二行書		22.5	18.5	20.0	鎌倉時代末～南北朝 初	巻入あり。
9	世尊寺行持親	【埼玉】	新古今集	巻第一・巻上54(同書中巻5)	紙本遺蹟	六半冊子	七行、和歌二行書		13.4	13.0	13.0	鎌倉時代末～南北朝 初	
10	足利親(源氏)	【埼玉】	【未詳(日記)】	小豆録切		紙本遺蹟	六半冊子小	五行書	15.5	7.5	14.0	鎌倉時代	
11	從二位左衛門(藤原)	【宇都】	古今集	巻第十三・巻三・433~435・438(34枚欠)	紙本遺蹟	四半冊子	八行、和歌二行書		24.6	15.4	19.4	鎌倉時代	
12	弘安院(後醍醐)	【重石(未詳)遺蹟(巻葉)】	新古今集	巻第四・地巻上・379~382	紙本遺蹟	四半冊子	十二行、和歌二行書		21.2	14.6	17.0	鎌倉時代	巻入あり。
13	後蓮法皇	【鎌倉(後醍醐入印)】	漆片切(巻切)			紙本遺蹟	巻紙	四行、和歌三行書	27.8	12.8	23.0	不明	
14	為朝(源氏)	【埼玉】	【(巻切)】(古今集歌)		【(巻切)】(古今集歌) 二行目(下切)は古今集巻第一198	紙本遺蹟	四半冊子	三行、和歌二行書	19.8	4.9	14.0	鎌倉期	之行目と3行目の間に遺葉あり。巻入は別冊(巻切)。
15	世尊寺(源氏)	【埼玉】	巻拾遺集		巻第十二・巻二・700~701(同書中巻)	紙本遺蹟	四半冊子	八行、和歌二行書	23.5	15.5	20.0	鎌倉期	
16	二条家(氏部)	【埼玉】	新古今集		巻第四・地巻上・339	紙本遺蹟	四半冊子	三行、和歌二行書	22.8	4.8	21.5	鎌倉	右側に二葉の端残りの巻あり。
17	世尊寺(足利親)	【埼玉】	和蓮物語集		巻下・巻479~480、489~490(巻組合)	紙本遺蹟	巻十六	九行、通し一冊内に 巻十六・巻一・巻二・巻三	23.5	21.6	奈良244、奈良27	鎌倉	巻尾、巻四の二葉巻入あり。巻切あり。巻五、巻五の3行目の間に遺葉あり。巻五、巻五の3行目の間に遺葉あり。巻五、巻五の3行目の間に遺葉あり。巻五、巻五の3行目の間に遺葉あり。

18	下今名集為題	「南風」			新古今集	卷第十四・忠歌四・1318-1321	紙本墨書	六半冊子	十四行、和歌二行書、十行目・下二行	117	102	10	室町15C	
19	二条集為定題	「中村」			拾遺集	下・卷・2829	紙本墨書	四半冊子	和歌二行書	228	148	202	南北朝	1771目・24行目の題は新目、室倉島あり。
20	為藤集(二条)	①「中村」二条集為藤と異文申候。 ②結語「二条集為藤と異文申候」			源氏物語	夕陽集(源氏物語大)1390~1400	紙本墨書	六半冊子	十一行	171	145	153	鎌倉末期～南北朝	西条集受「源氏物語」の注釈あり、24として所収。
21	二条集為藤題	①「集山」 ②結語「二条集為藤了有り」			新古今集	卷第九・集第三・1282～1320附書	紙本墨書	四半冊子	七行、和歌二行書	222	155	206	南北朝	
22	為相集(永泉)	「集山」	秋田司／兼切		朝葉抄	古今集巻下十行・注文～「兼切」注文 道中	彩墨墨書(銀母墨文)	四半冊子	九行、和歌二行書	222	152	202	鎌倉中期	
23	為世集(二條)	「中村」			古今集	卷第十一・忠歌一・414～419	紙本墨書	四半冊子	八行、和歌一行書	268	173	242	鎌倉末期～南北朝	
24	二条集為藤題	(鎌倉受入印)	伊勢切		結拾集	卷第十七・續歌中・1207～1209	彩墨墨書(銀母墨墨刷)	四半冊子	八行、和歌二行書	246	154	195	鎌倉末期～南北朝	
25	公方大親朝政職 松公(足利)	①「集山」 ②結語「大親朝政職公」以外、外に「了有り」			新古今集	卷第十一・忠歌一・1002～1004(上)の 可(其)	紙本墨書	六半冊子	十行、和歌一行書	168	120	142	室町期	
26	兼好法師	「中村」			結拾集	卷第十八・續下・864	紙本墨書	四半冊子	九行、和歌二行書	222	150	193	鎌倉末～南北朝	同書番号
27	嵯阿法師	「集山」			後拾遺集	卷第十三・忠歌三・479～480(附書の一節まで)	紙本墨書	四半冊子	五行、和歌二行書	238	88	207	鎌倉末～南北朝	
28	淨井法師	「集山」			〔古今集注〕	卷第十八・續歌下・624の7番歌の注釈部分、引歌は兼歌	紙本墨書	巻子本か	和歌二行書	258	77	248	鎌倉末	
29	兼通	「中村」			〔歌切〕(後拾遺集歌)	卷第十四・忠歌一・815	紙本墨書	〔未詳〕	和歌二行書	282	91	206	南北朝～室町	四半冊に返冊別に写つた兼好法師の「な、にてちし／＼あ／＼あるはん」つけたる所あり〔に〕。
30	兼善(仁清)	「中村」			新古今集	卷第十一・續歌中・978～980	紙本墨書	四半冊子	和歌一行書	270	217	249	室町前期	左側に鑑あり
31	四條集為藤定題 兼成	①「集山」 ②結語「四條集為藤十二月十七日了有り合」			源氏物語	後拾遺(源氏物語大)179(6)行目	紙本墨書(漆料結核あり)	巻子本か	散らし書き	232	151	南北朝	鎌倉時代末期	
32	春日社奉持集「中」印	「集山」			〔未詳歌文〕	(天神信仰関連)	紙本墨書	巻子本か	四行、和歌二行書	288	87	250		
33	中市兵部大納言 中	①「集山」 ②結語「中市兵部大納言出 兼成の 辰四月四日了有り書」			新古今集	卷第四・秋歌上・340～343	紙本墨書	四半冊子	十行、和歌一行書	230	166	198	室町後期	
34	久保朝臣氏家公	「集山」	安芸切		新成集	卷第十八・續歌中・1455～1467	紙本墨書	四半冊子	八行、和歌二行書	239	154	182	鎌倉時代末期	
35	定法公卿公	朱文捺印(「永末」)			新古今集	卷三・夏歌・20～221	紙本墨書	六四半冊子	四行、和歌一行書	315	75	278	室町後期	

36	堀川親露	「唐鑑」	新古今集	巻第二・巻下・133~138	紙本綴書	四半冊子	九行、和歌一行書	256	206	206	室町中期	
37	五條親為手鑑	①「唐鑑」(糸欄表紙) ②「唐鑑」(五條親為手鑑) 了香判	新古今集	巻第十六・巻上・1557~1585	紙本綴書	四半冊子	十二行、和歌一行書	228	170	202	室町中期	
38	将之入内膳	①「唐鑑」(糸欄表紙) ②「唐鑑」(月鑑 荒れたる 了香へみせ巻品) 了香判	新古今集	巻第十六・巻上・1561~1584	紙本綴書	四半冊子	九行、和歌一行書	250	168	228	室町中期	
39	源時義経行状	①「唐鑑」(源時義経行状 享保八月廿三日 了香 正業に云)	上巻部・1007~1011	紙本綴書	四半冊子	十行、和歌一行書	192	122	186	室町中期		
40	津守親助	「香村」	新古今集	巻四・巻上・309~311	紙本綴書	四半冊子	九行、和歌二行書	249	156	186	鎌倉時代末期 左側に「源久弘」	
41	後醍醐天皇	「唐山」	新古今集(所載歌)	巻第十五・巻下・942	紙本綴書(糸欄表紙綴書 題)	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	385	54		安土桃山~江戸初期 (1571~1617)	
42	後花園親王内侍 了香	①「唐鑑」(後花園親王内侍 了香に云) ②「唐鑑」(後花園親王内侍 了香に云) 了香判	〔目録歌のみ〕		紙本綴書(文庫本行書)	短冊	和歌一行書	347	53		室町中期	
43	後醍醐天皇	①「唐山」②「唐鑑」(後醍醐天皇 将之みせ 了香判)	治道集(所載歌)	上・1259	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	385	59		安土桃山~江戸初期 (1565~1630)	
44	正	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	古今集(所載歌)	巻第一・巻上・44	紙本綴書(文庫本行書)	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	355	60		江戸前期(1640~ 1685)	
45	正	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	古今集(所載歌)	巻第一・巻上・1204	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	382	57		江戸前期(1591~ 1653)	
46	良村法親王	「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	新古今集(所載歌)	巻第十七・巻中・1618	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	350	58		江戸前期(1604~ 1685)	
47	青蓮親王	「唐鑑」	古今集(所載歌)	巻第三・巻上・224	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	382	58		江戸前期(1615~ 1680)	
48	大寺寺親王	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判 ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	古今集(所載歌)	巻第十六・巻中・350	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	381	60		江戸前期(1573~ 1660)	
49	妙法親王	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判 ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	古今集(所載歌)	巻第一・巻上・11	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	379	58		江戸前期(1602~ 1681)	
50	正	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判 ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	新古今集(所載歌)	巻第十六・巻中・1835	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	359	55		安土桃山(1531~ 1601)	
51	正	①「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判 ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	新古今集(所載歌)	巻第十六・巻中・1835	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	381	57		江戸前期(1604~ 1671)	
52	實相院宮	「唐鑑」	新古今集(所載歌)	巻第十六・巻中・1835	紙本綴書(文庫本行書) ②「唐鑑」(了香并親露 所載歌) 了香判	短冊	和歌二行書、二行目 一字下付	384	58		江戸前期(1601~ 1681)	



[illegible]

87	中野親通卿 之伯孫通稱「了春」		新古今集(所載歌)	卷第二・巻下・129	杉原し書き	180	160	江戸時代前期～中期 村証は%4.53.55.6.0分間
88	横田前圓白樂庵 僧有「了福」 之伯孫(鹿島濱公)あゝの實に、享和月七日丁酉刊		(鎌倉人詩歌)「所 載文」 「了文書」		杉原し書き	20.4	178	江戸時代前期～中期 村証は%4.49.32.29.6分間
89	山本親實卿 [享和]		三十六人集(所載歌)	135	杉原し書き 杉原親實(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	18.4	176	江戸時代前期～中期 村証は%4.49.32.29.6分間
90	中野親内木通 親有「了福」 之伯孫(台山)中野通政公 おひたつ 了春		新古今集(所載歌)	卷第二・巻下・134	杉原し書き 杉原親實(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	21.2	182	江戸前期～中期
91	竹中親季卿 [享山]		御代不承公(所載歌)	九十七番石	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	12.2	8.6	江戸時代前期～中期か
92	白川清元王 [梅]		三十六人集(所載歌)	小野内卿	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	18.6	17.6	江戸前期～中期
93	藤波親宗卿 [享和]		新古今集(所載歌)	卷第七・751	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	18.0	160	江戸前期
94	宮内卿 [梅]		和漢詩集(所載歌)	上・夏・夏夜・151	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	19.7	170	江戸時代
95	今親殿定親卿 之伯孫(定親卿) 了春卿		古今集(所載歌)	卷第三・巻下・166	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	18.0	160	江戸前期～中期 村証は%4.53.55.6.0分間
96	藤波三公子義忠卿 [梅]		子規集(所載歌)	卷第六・巻下・397	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	17.8	160	江戸前期～中期 村証は%4.53.55.6.0分間
97	松本親隆公 之伯孫(松本親隆公)くちて行 了春卿		拾遺集(所載歌)	卷第三・巻下・214	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	17.1	167	江戸～中期
98	近衛親隆少公 [重]		拾遺集(所載歌)	卷第十七・釋教・1148	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	20.2	166	安土・織山～江戸前期
99	親化孝親 [梅]		三十六人集(所載歌)	應永端正・102	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	18.4	175	江戸前期
100	天狗少輔結城重 光 [梅]		古今六帖(所載歌)	卷第二・山重・983	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	17.3	160	室町末期
101	万寿小路身房卿 [梅]		新古今集(所載歌)	卷第十八・釋教下・1740	杉原し書き(在日侍者松砂子 傳説) 金宗元次	15.4	164	江戸前～中期 村証は%4.53.55.6.0分間



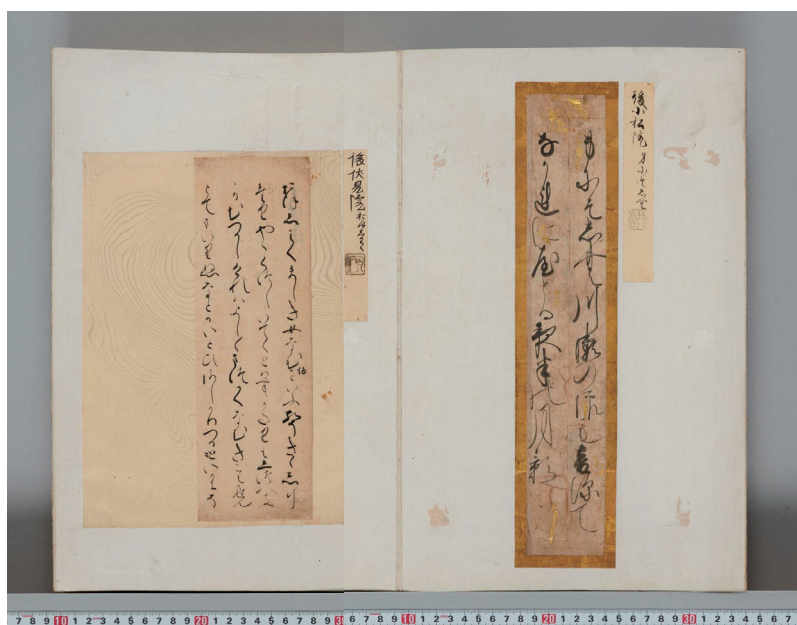
表紙





見返し

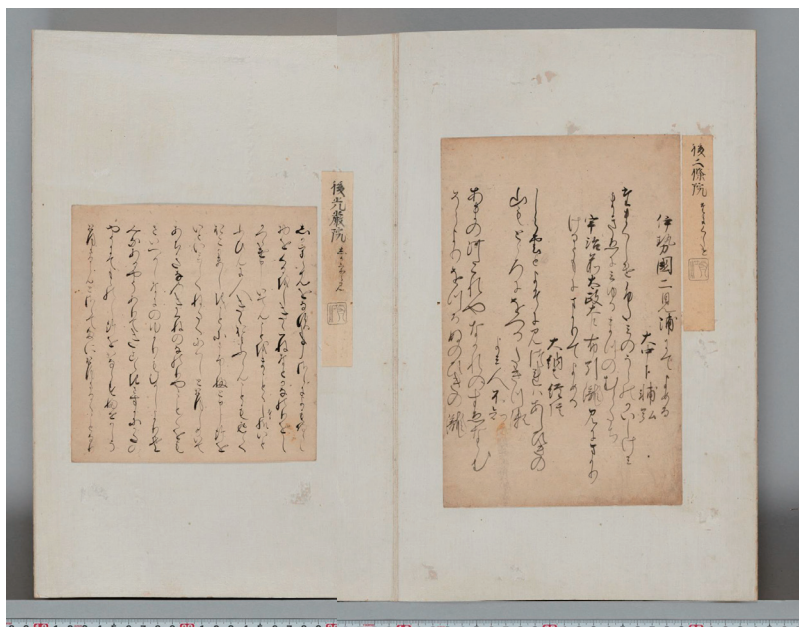
一才



一ウ

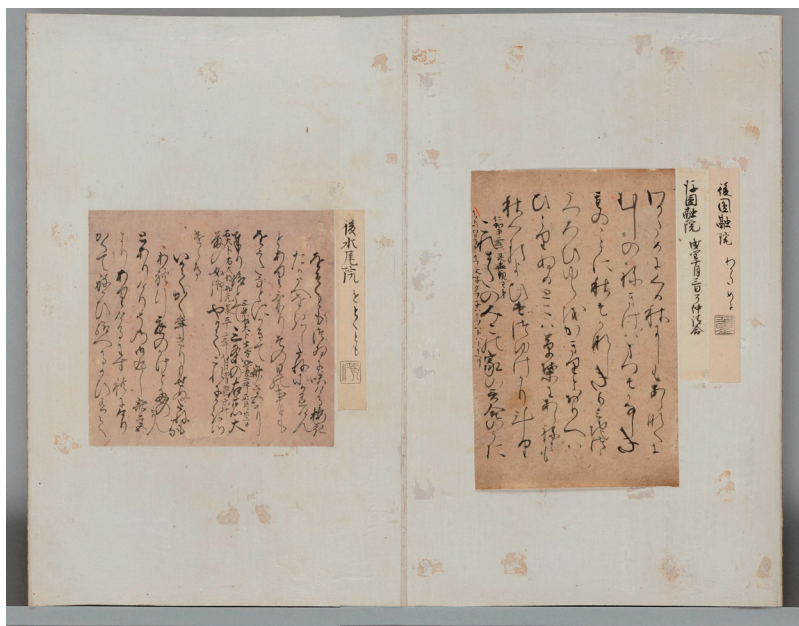
二才





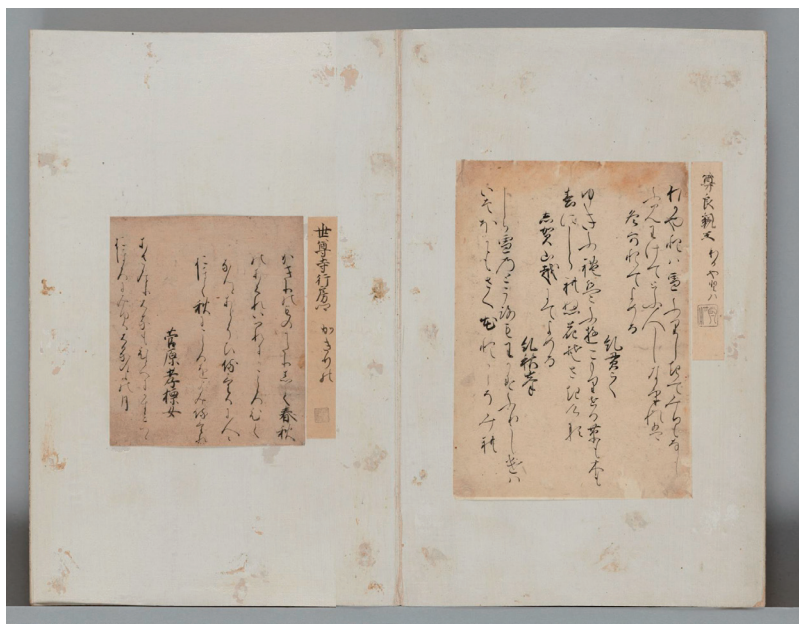
二ウ

三オ

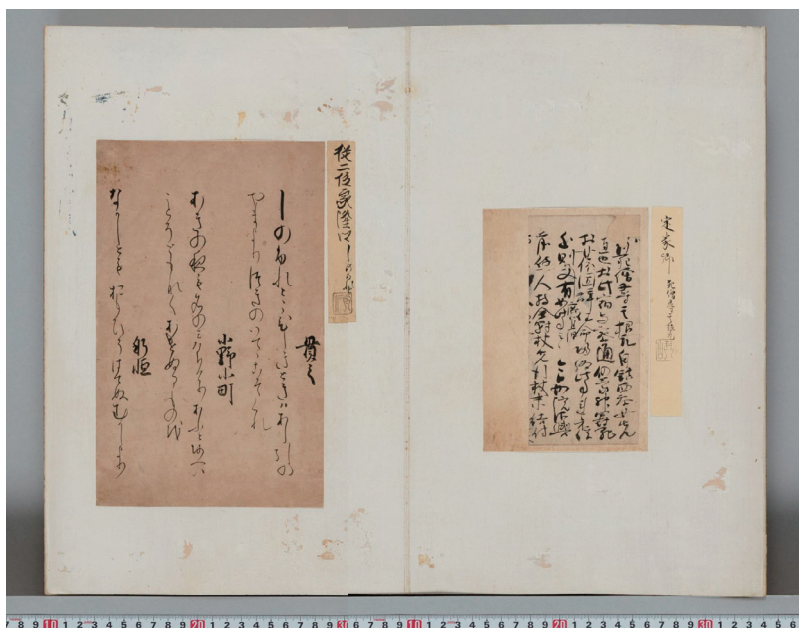


三ウ

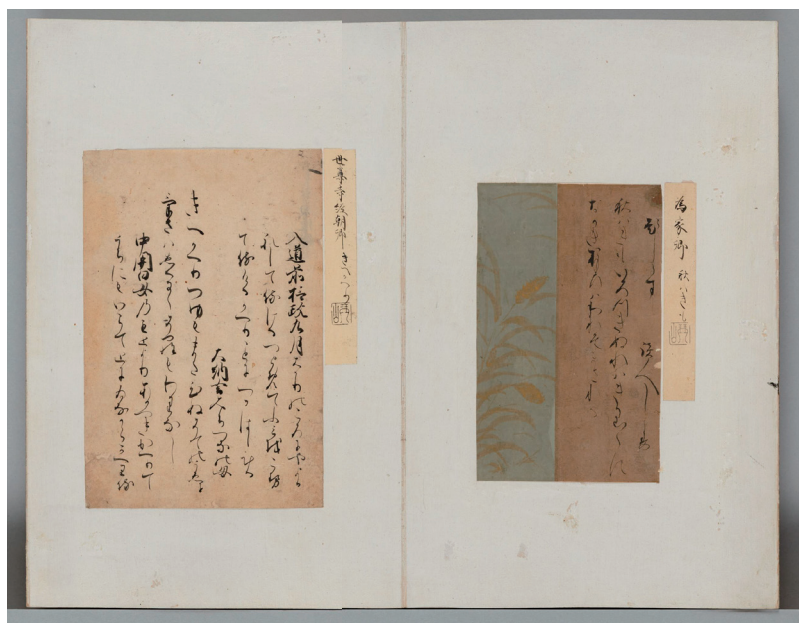
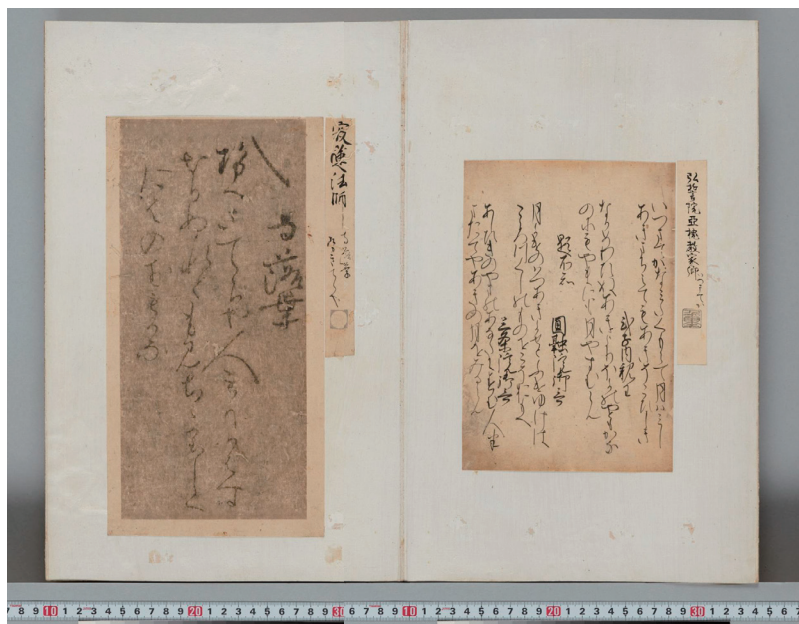
四オ



五才



六才





二惟家為氏之為也

酒

研忠齋  
保水  
明  
清

八  
ウ

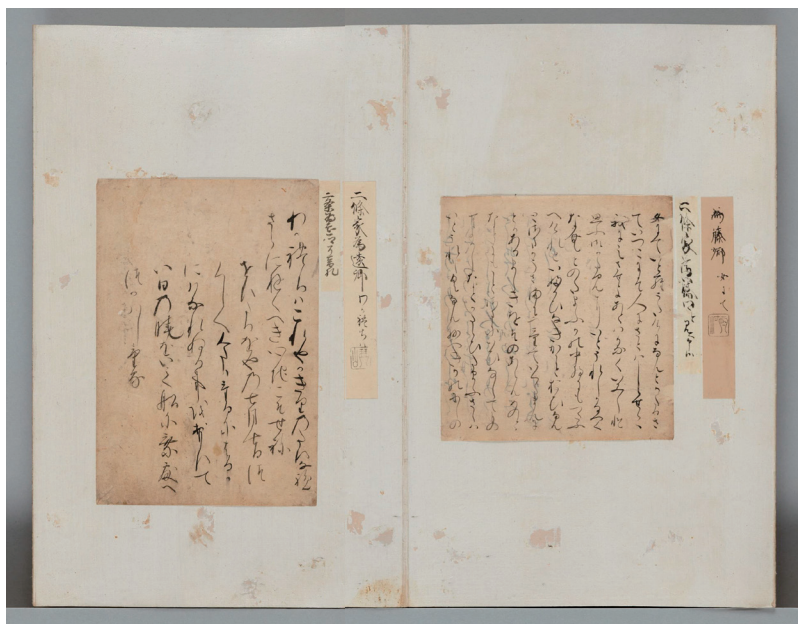
下冷泉假持為卿

二府家為定所

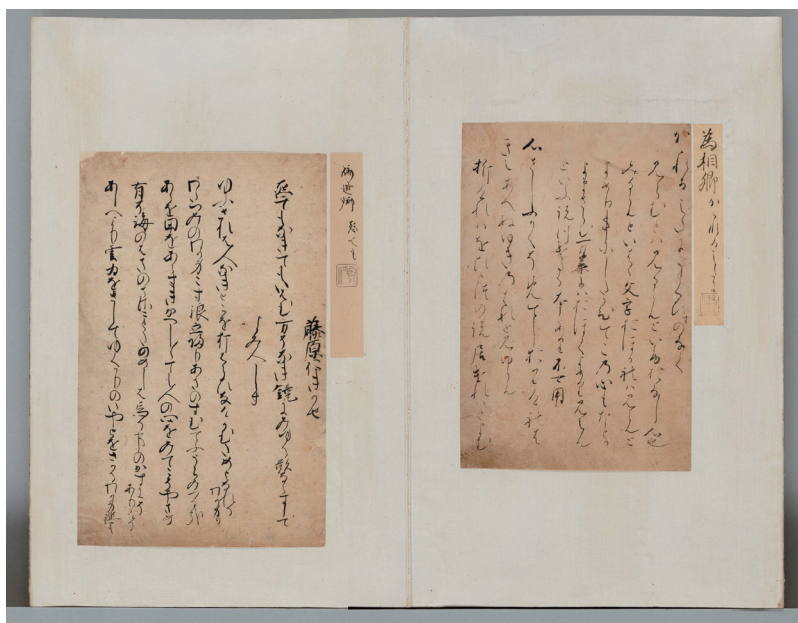
九  
ウ

九才

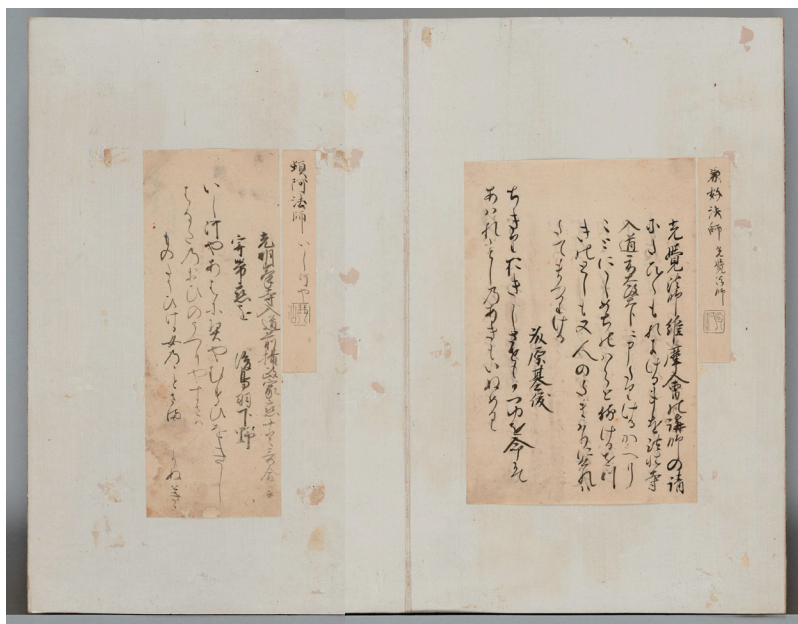
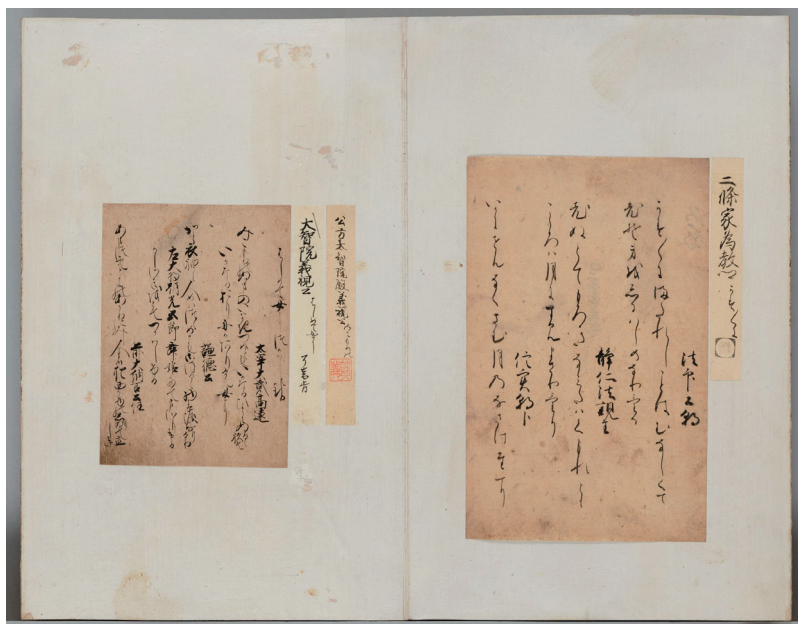
一〇才



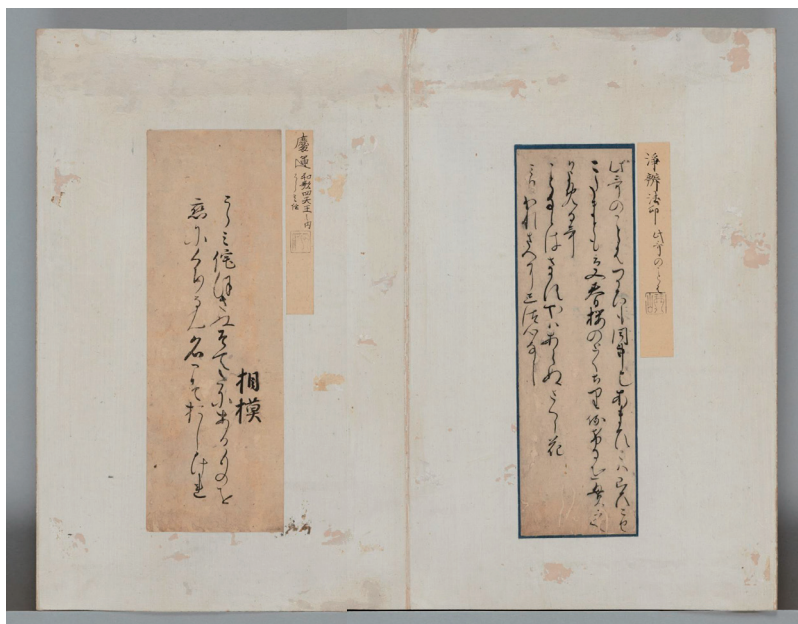
一一オ



一二オ

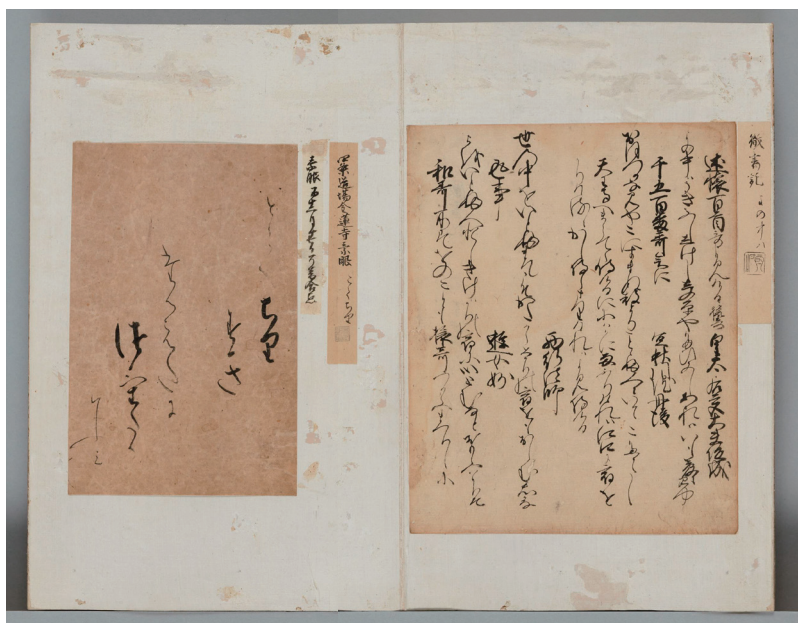






一五才

一四ウ



一六才

一五ウ

名一にてとくねとのねと一東の東に  
 何とて世字とじのふれいふちをう  
 何とてとくねとるんずうりや  
 ねのいふのふれいふち

十市兵部太神遠志  
十市兵部太神遠志


[illegible]

一七才

久我相國受通公

上海人

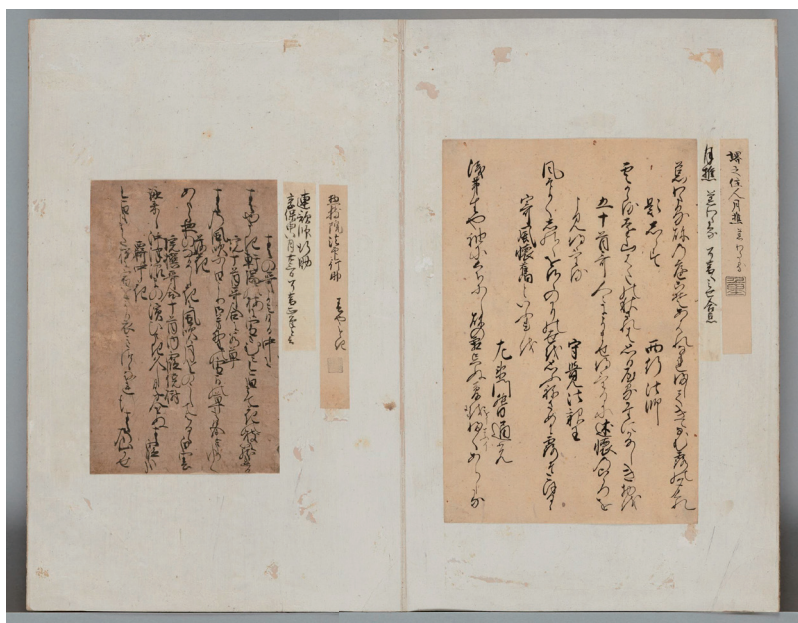
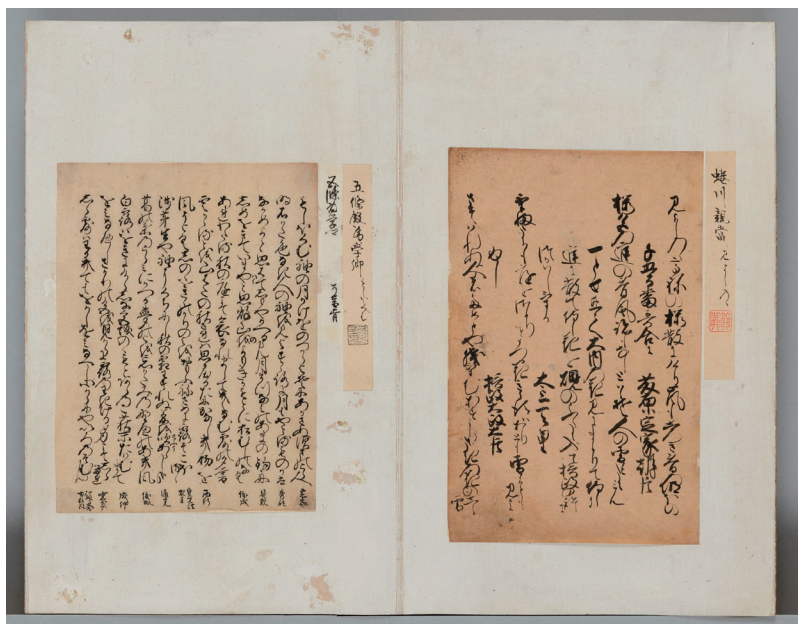
いなりやわらひのくさるゝ人のやじり  
うきとこひぢきもつてをれ  
まゐりに 波下雲方  
りかへとも思ふやうに あや  
しうきあはれなげうの遠近  
さすはねとあのめすまゝに 津島  
おかしき山

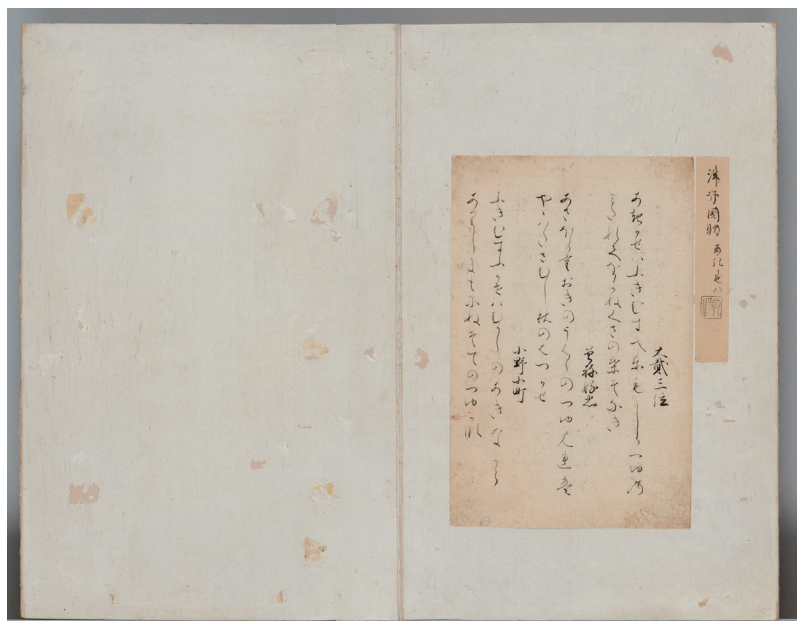
定法守段云助  
百有奇  
うちまう  
り  


百有千人、小を以て大の時、大なりと見え  
有りきに、  
播磨守、  
うしろのやうな海、新なるふみの西の方  
連綿とて、二百有千とて、有りきに

一八才









(裏面)

一才



一ウ

二才





二ウ

三オ



三ウ

四オ



五オ

四ウ



六オ

五ウ





六ウ

七オ



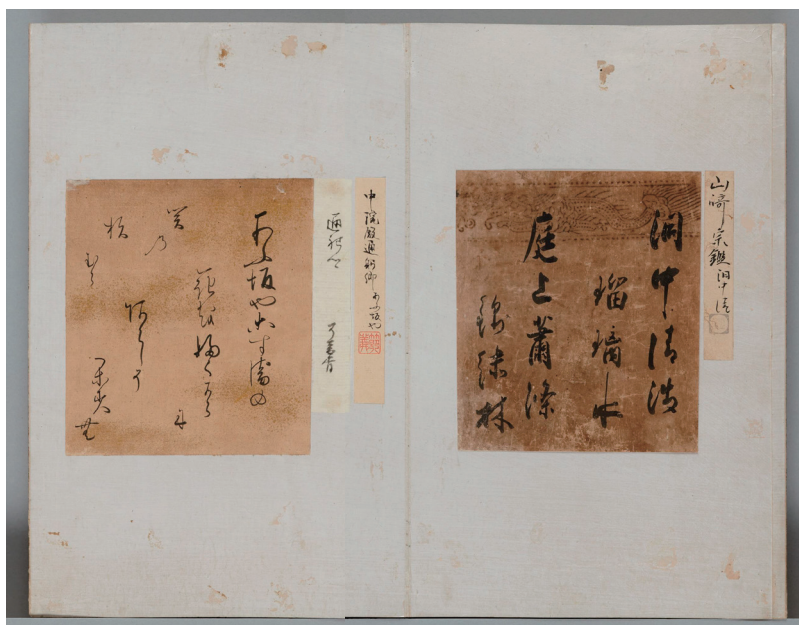
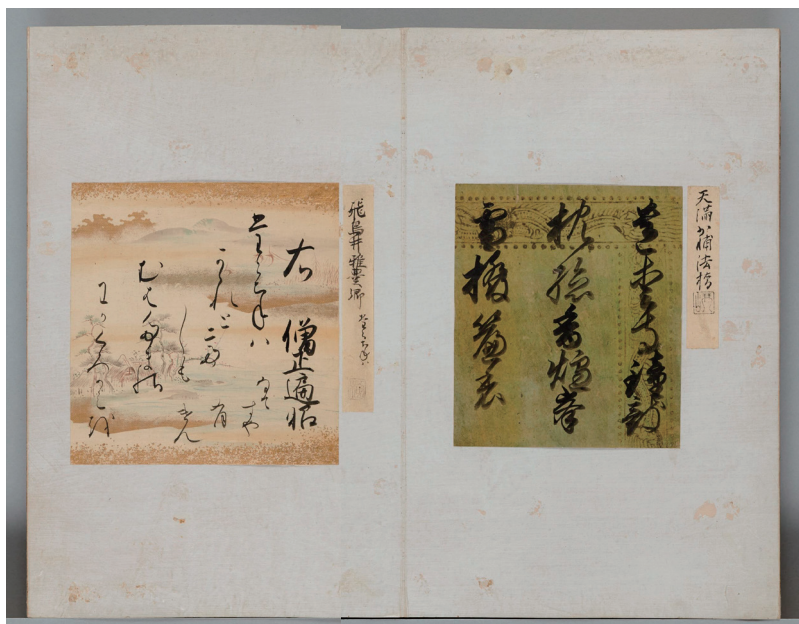
七ウ

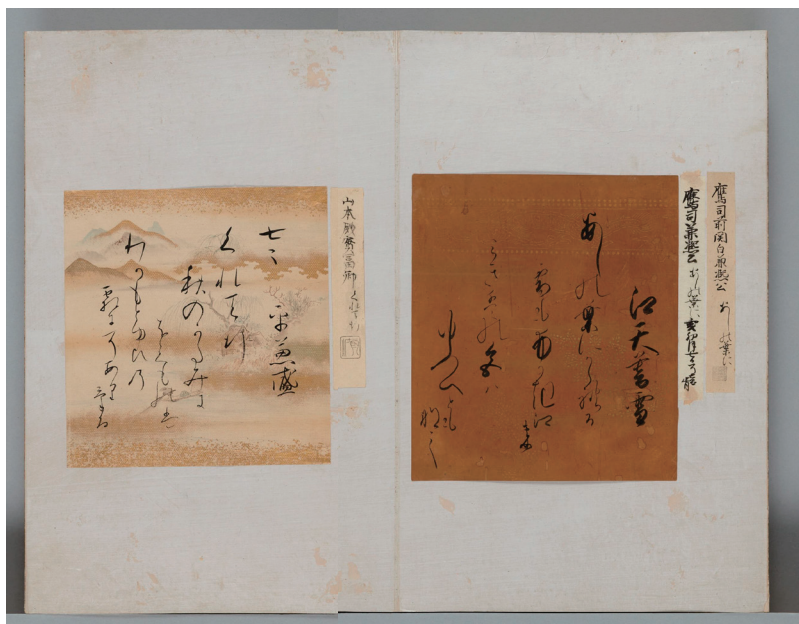
八オ











一五才



一六才



一六ウ

一七オ



一七ウ

一八オ





一九才

一八ウ



二〇才

一九ウ

